

■八月十五日放送

足利（斯波）高経の生涯

福井商工会議所
商工相談所長 奥山 秀範

一一九二年、源頼朝が大蔵幕府を開くと、同族として麾下にはせ加わった足利義兼は、頼朝とは母同士が義理の姉妹であったことや（実は叔母と姪）、頼朝の妻北条政子の妹を娶ったこともあり、幕府内での地位を確固たるものとした。

その足利氏であるが、北条氏の執権政治確立の時期には泰氏の代になっていた。足利氏は代々北条宗家（得宗）から妻を娶っていたため当然北条宗家の与党と思われていたが、意外にも泰氏は、三浦氏と組んで宗家と対立関係に入っていた北条朝時（北条支族名越氏）の娘との間に子をなしたのである。これが斯波氏の祖といわれている家氏である。

もちろん、北条得宗も直ちに巻き返しに出、孫娘を正室に送り込み、三男頼氏をもつけさせた。このため足利氏の家督は、この頼氏に引き継がれることになるものの、泰氏の反骨精神は健在であった。源氏の正統が三代將軍実朝で絶えた後、足利氏の所領となっていた、源頼義・義家ゆかりの源氏の聖地と



もいづべき「奥州斯波郡」を家氏に分地したのである。家氏は足利一門を代表する関東御家人として活躍するが、後に斯波氏が「將軍と同格」を自称し、「一門第一の家格」といわれた所以の一つは、この斯波郡の領

有にもあるのである。

家氏の曾孫が、足利尊氏と同年で室町幕府の宿老、また南北朝期の越前・若狭守護を努めた、足利（斯波）尾張守高経である。

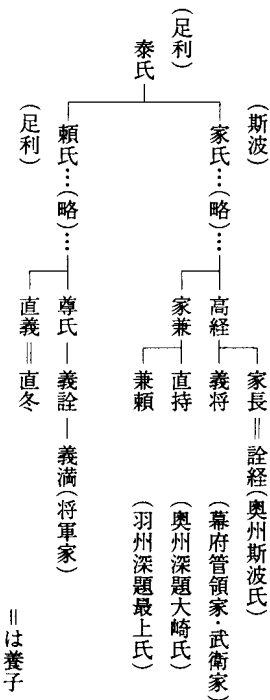
その戦歴は、湊川の決戦での楠軍の殲滅、灯明寺嶺で新田義貞を討取るなど輝かしいものであるが、政治家としてはその家格の高さからくる動揺も少なくなかった。

今回は、本県ゆかりの斯波氏の誕生から、高経の栄光とその死までをたどってみたい。



*写真は「源氏の聖地」を支配した奥州斯波氏の斯波御所跡

足利斯波略系図



講師略歴：奥山 秀範（おくやま・ひでのり）
昭和二十七年一月丹生郡越前町生まれ。昭和四十九年立命館大学産業社会学部卒業。昭和四十九年福井商工会議所入所、商工相談所にて中小企業の経営相談、情報化支援に従事。金融課長、総務課長、総合企画室次長を経て平成十年四月より現職。